

三原に、いま、どんな消防屯所が必要か？

「これまで」の消防団は、一部の人が参加できない力をもった男性が消防活動を行うというものでした。私たちの考える「これから」の消防団とは、地域の人たちに密着して、むしろ誰でも参加でき、緊急時には、それぞれにあった方法で助け合い、「みんなが消防団」となるようなものです。「みんなが消防団」となり地域を守り、その拠点となるような「みんなの消防屯所」を目指します。

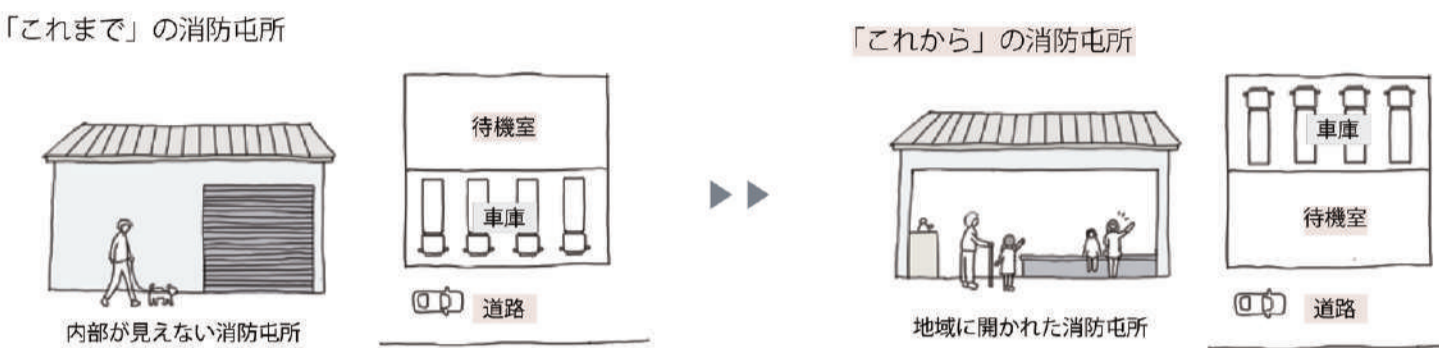


消防屯所の見え方

この敷地は、中学校、住宅街の道路、人通りの多い歩道に面している裏のない敷地であるため、この三方向に開き消防団の活動をアピールすることはできません。しかし、安全性や防犯上の観点から、直接開くことはできないため、見え方を考えることで、施錠可能で防犯性を保ちつつ「みんな」の消防団を実現します。



車庫と待機室の反転



道路側に車庫がありシャッターが閉められることで、内部の行為が地域の人目につかないためブラックボックス化されていました。消防屯所は住民にとって遠い存在といえます。

裏側がないという敷地の特性を生かすことで、待機室を道路側にして車庫を学校側にします。配置を反転させることで、消防団の活動を見せ、地域の人に視覚的に開きます。

公共施設に木造を

木造を採用することで、坪単価 80 万というローコストで魅力的な屯所を実現します。木造は建築する際の炭素排出が少なく、木は炭素を貯蔵するため脱炭素社会実現に貢献します。林業は三原市にとって重要な産業であるため、アカマツの利用により地域の経済の発展にも寄与します。広島市は公共建築物への木材利用率が低いいため積極的な木造の建設が必要と考えます。

学校に対して開く

一方で、学校側に対しては未来の消防団である中学生に対して消防団の存在を発信するために、今までの消防屯所の顔である車庫を配置します。それにより、物理的な距離をとりつつも、消防屯所の存在をアピールします。



歩道に対して開く

国道側の歩道は日常的に地域の方が動線として利用しています。歩道側の外壁を FRP 平板とすることで、待機室の活動の様子と車両の両者が見えるような、学校側とも住宅地側とも違うファサードをつくりたい。このように、駐車場を東側に配置することで歩道側に開くことが可能になっています。



日常に溶け込む消防屯所

屯所は地域の風景となり、地域の人々にとって日常的な風景となります。地域の人々は、普段は身近な風景として眺めるが、夜間の会議や出動の際は消防団の活動をしている光景を見ることで、消防屯所を再認識します。夜間は地域の電灯となります。



住宅地側に開く

- 地域の行動変容を促す -

待機室と車庫の反転により、巨大なボリュームとなる車庫を住宅地側から距離をとり、さらに住宅地側の屋根の勾配を抑えることで地域の人を招き入れるような消防屯所とします。既存の屯所の車庫は、シャッターが下り地域の人目につくことはありませんでした。安全面から待機室を緩衝帯とし物理的な距離を設けつつ、FRP 平板越しに柔らかく地域に対して開放します。

裏のない消防屯所

待機室のフレキシビリティ

- 可変性への配慮 -

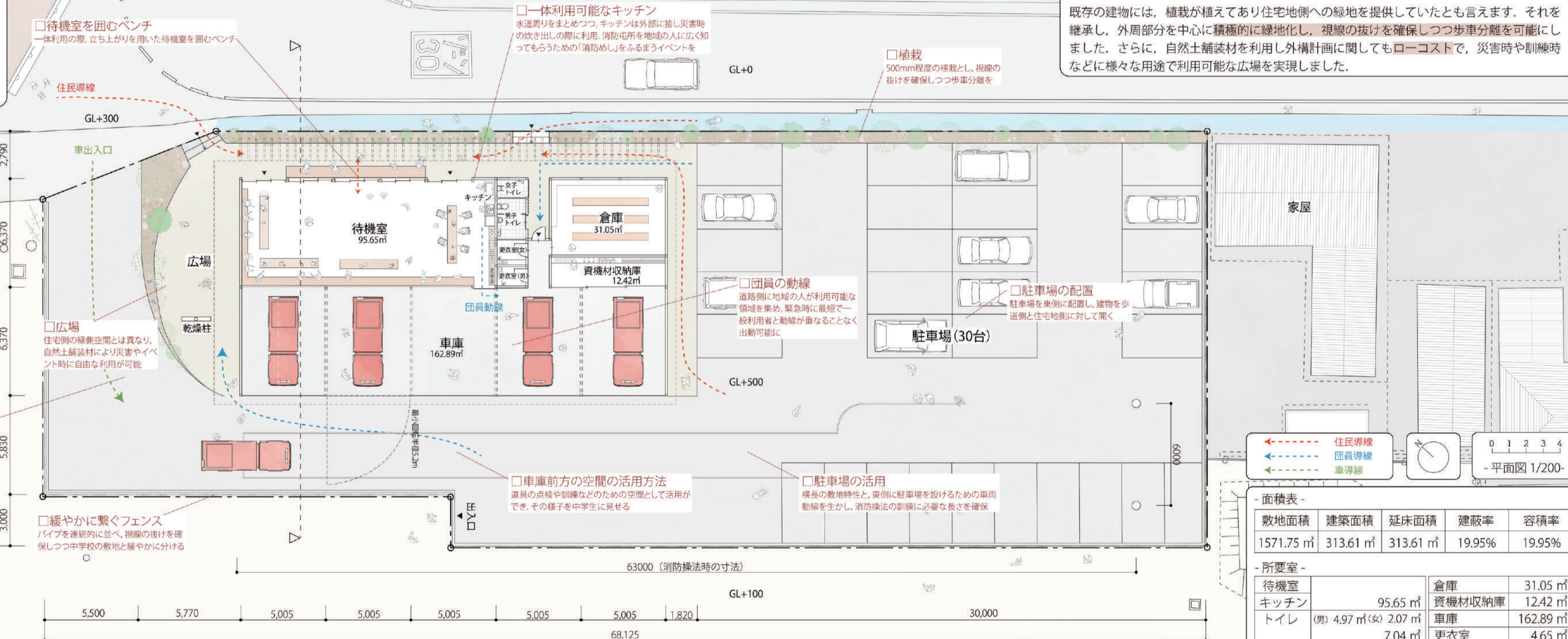
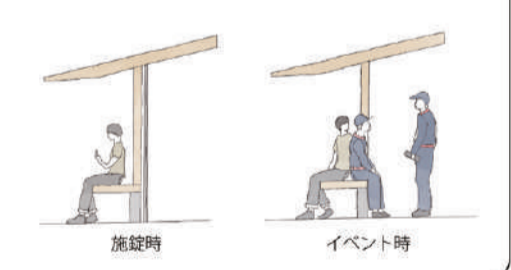
待機室は、全体を柱のない大空間とすることで、柱や壁に縛られることなく自由にカーテンで間仕切り可能な待機室となります。分団の数が減った際にも対応可能であり、一体利用の際は開放的な空間で会議をすることが可能になります。屋根は 9m (3m×3)、8m (4m×2) とし、製材を無駄にしません。また、待機室の床を金銭仕上げとすることでコストを抑えつつ、掃除などの維持管理を容易にします。



施錠可能かつ住民のための場所を

- 防犯性 -

消防団員は常駐しないため、日常的な地域の人々のための空間を考えると外部空間となります。柱と扉の位置をずらすことで、日常的に利用可能な緑地をつくることにも、会議やイベントの際は両側から座ることが可能なものとなり、団員と地域の人々の区別が限りなく少なくなります。



人と人を繋ぐ待機室

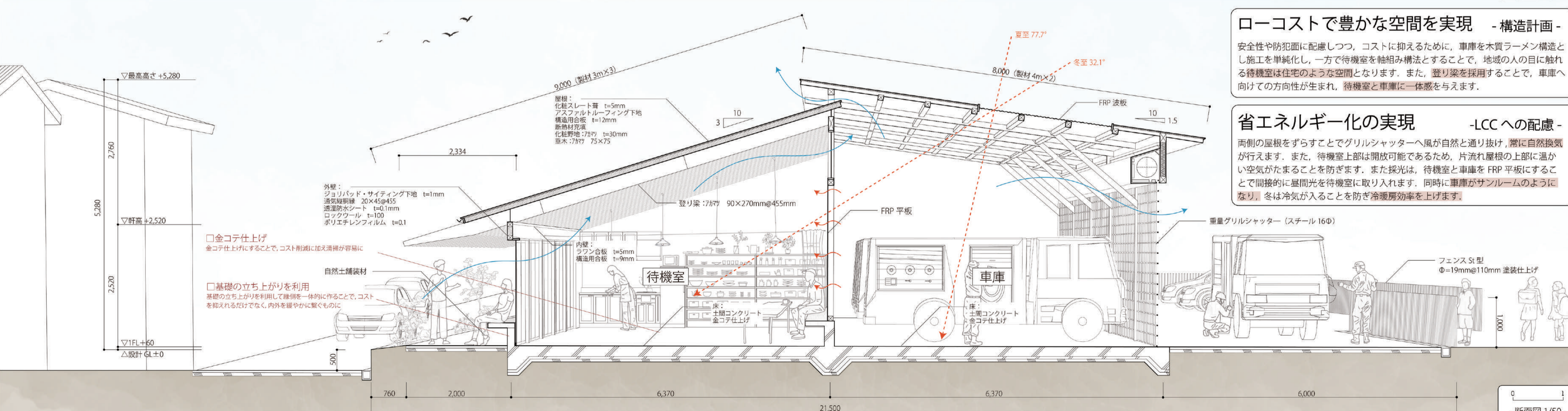
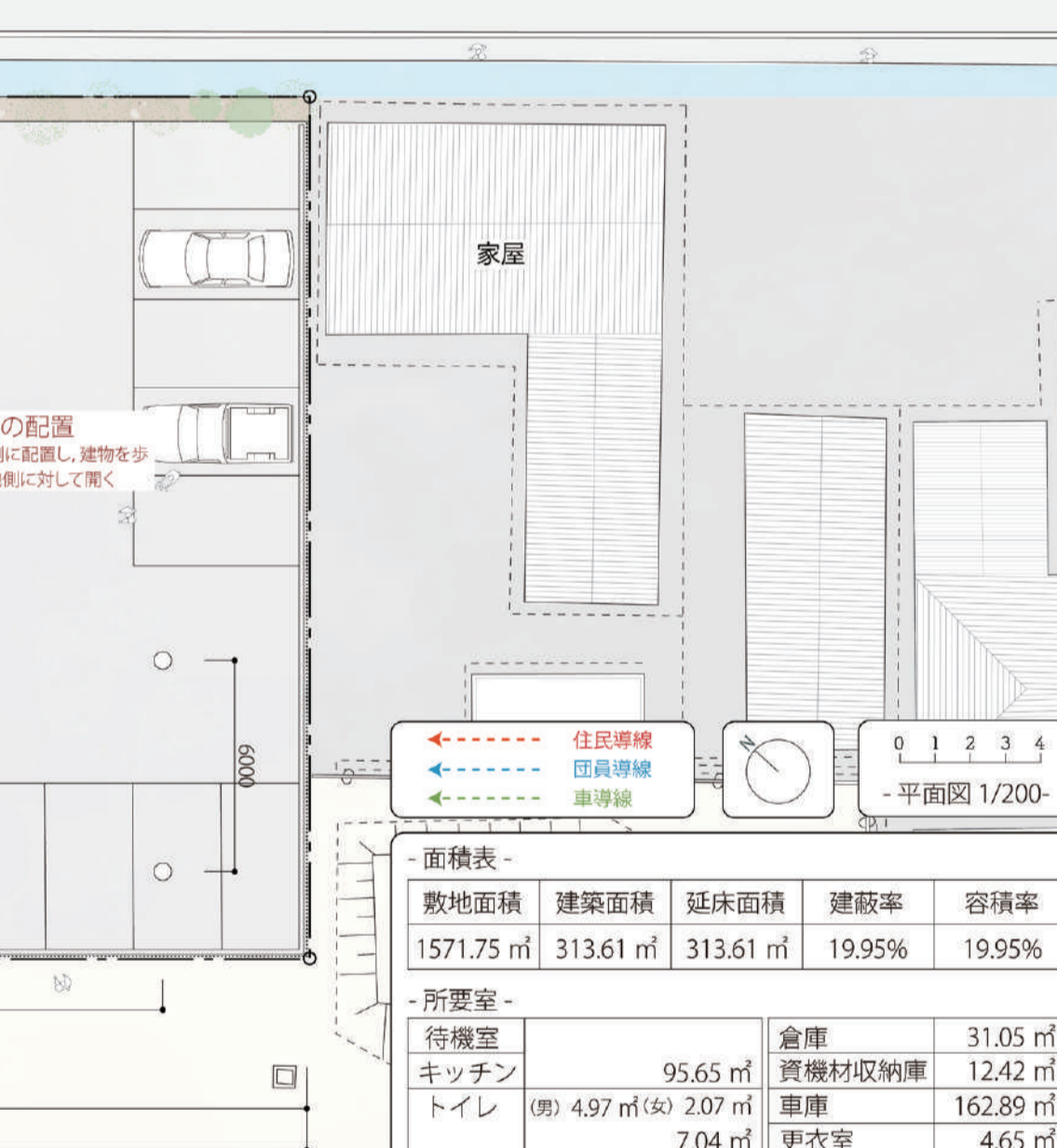
- 地域との関わり -

「みんな」の消防屯所として、地域の人たちが集まることができるような場をつくりたい。必要面積に収めつつ地域の人に開かれた空間をつくりだすために、外部空間に登り梁を併用することで日影をつくりたい。さらに、基礎の立ち上がりを利用して緑地をつくることで、施錠し、消防団員がいなくても地域の人々が利用可能な場所をつくりたい。

外構計画

- 機能性への配慮 -

既存の建物には、植栽が植えてあり住宅地側への緑地を提供していたとも言えます。それを継承し、外周部分を中心に積極的に緑地化し、視線の抜けを確認しつつ歩車分離を可能にしました。さらに、自然土舗装材を利用し外構計画に関してモロコーストで、災害時や訓練時などに様々な用途で利用可能な広場を実現しました。



ローコストで豊かな空間を実現

- 構造計画 -

安全性や防犯面に配慮しつつ、コストを抑えるために、車庫を木質ラミネート構造とし施工を単純化し、一方で待機室を軸組み構造とすることで、地域の人目につく待機室は住宅のような空間となります。また、登り梁を採用することで、車庫へ向けての方向性が生まれ、待機室と車庫を一体感を与えます。

省エネルギー化の実現

- LCC への配慮 -

両側の屋根をずらすことでグリルシャッターへ風が自然と通り抜け、常に自然換気が行えます。また、待機室上部は開放可能であるため、片流れ屋根の上部に温かい空気がたまることを防ぎます。また採光は、待機室と車庫を FRP 平板にすることで間接的に昼間光を待機室に取り入れます。同時に車庫がサンルームのようになり、冬は冷気が入ることを防ぎ冷暖房効率を上げます。